

麻疹予防方法

- 麻疹ワクチンあるいは麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)をうけること
- 患者さんと接触後、**3日以内にワクチン**を受ければ、発症を予防できる可能性があります。
 - 患者さんと接触して3日を過ぎてしまった場合、6日以内にガンマグロブリンの注射を受ければ、発症を予防できる可能性があります。
 - ガンマグロブリンの問題点
- 麻疹を発症してしまうと、**特異的な治療法はなく、対症療法のみ**。予防に勝る治療はない。

緊急ワクチン接種の際の 注意点

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/mhosp-ver1.pdf>

【接種不適当者（予防接種を受けることが適当でない者）】

被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはならない。

1. 明らかな発熱を呈している者
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
3. 本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
4. 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者（「相互作用」の項参照）
5. 妊娠していることが明らかな者
6. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

◎ワクチン接種にあたっては、

- 1) 対象者がワクチン接種不適当者でないことを確認
- 2) ワクチン接種の効果、副反応について十分に保護者(未成年の場合)、本人に説明する
- 3) 問診(妊娠が考えられる年代では、**成人用の問診票で確認**)、診察
- 4) 接種医により接種可能と判断され、保護者(未成年の場合)、本人がワクチン接種に同意した場合、ワクチンを接種
- 5) 接種後健康状況を観察